

令和4年度
全国学力・学習状況調査

＝留萌市における結果の概要＝

I	調査の概要	1 P
II	教科調査結果の概要	2 P
III	質問紙調査結果の概要	14 P
IV	おわりに	25 P

令和4年12月

留萌市教育委員会

I 調査の概要

1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査の対象

小学校第6学年、中学校第3学年の原則として全児童生徒

3 調査の内容

(1) 児童生徒に対する調査

① 教科に関する調査（国語、算数・数学、理科）

ア 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり、常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能 等

イ 知識・技能を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て、実践し、評価・改善する力 等

※上記のアとイを一体的に問う調査問題

② 学習や生活の諸側面等に関する質問紙調査

・学習意欲、学習方法、学習習慣、生活習慣 等

(2) 学校に対する質問紙調査

指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況 等

4 調査実施日

令和4年4月19日（火）

5 調査を実施した学校・児童生徒数

	小 学 校		中 学 校	
	実施学校数	児 童 数	実施学校数	生 徒 数
全 国(公立)	18,671 校	965,761 人	9,348 校	892,585 人
北海道(公立)	949 校	34,310 人	568 校	32,940 人
留 萌 市	5 校	120 人	2 校	130 人

6 調査結果の解釈等に関する留意事項

(1) 本調査の結果については、児童生徒が身に付けるべき学力の特定の一部分であることや、学校における教育活動の一側面に過ぎないことに留意する必要がある。

(2) 本調査の結果においては、平均正答数、平均正答率等の数値を示しているが、これらの数値のみで必ずしも調査結果のすべてを表すものではなく、他の情報と合わせて総合的に結果を分析・評価する必要がある。また、個々の設問や領域等に注目して学習指導上の課題を把握・分析し、児童生徒一人一人の学習改善や学習意欲の向上につなげることも重要である。

備 考

※全国平均との差に関する表現について

- | | | |
|-------------|------|------|
| ・ 7%以上 | 相当高い | 相当低い |
| ・ 5%以上 7%未満 | 高い | 低い |
| ・ 3%以上 5%未満 | やや高い | やや低い |

※文部科学省は平均正答率について、整数値で公表していますが、留萌市では、実施してきた教育の成果を検証するため、従来のデータと整合性をもたせた分析が必要と判断し、提供されたデータをもとに独自に算出した小数値で示しています。

II 教科調査結果の概要

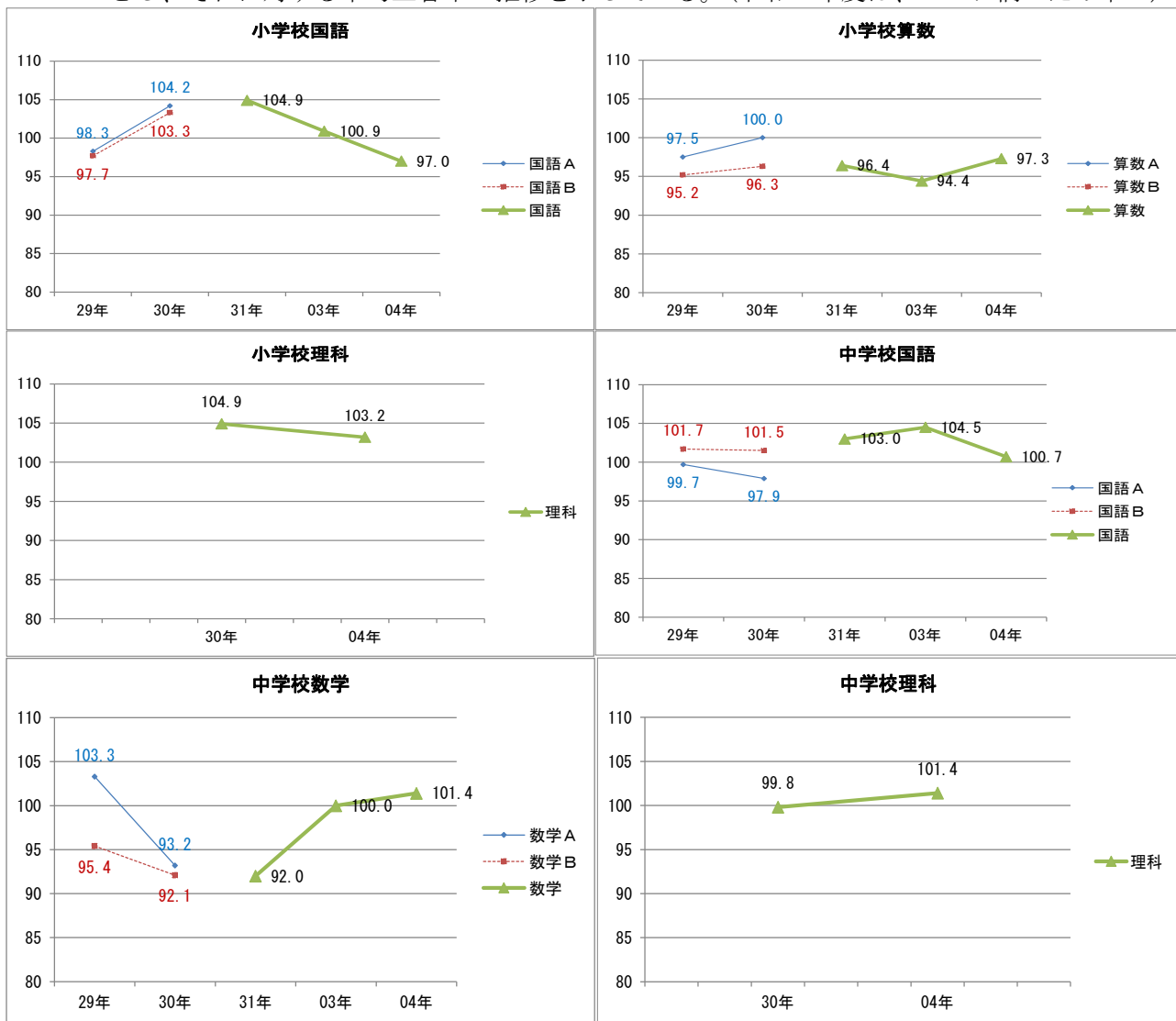
1 平均正答率から見る学力の状況の概要

(1) 令和4年度各教科の平均正答率(%)と全国・北海道との差

	小学校			中学校		
	国語	算数	理科	国語	数学	理科
留萌市	63.6	61.5	65.3	69.5	52.1	50.0
北海道	64.4	61.1	62.9	68.6	48.9	49.0
全国	65.6	63.2	63.3	69.0	51.4	49.3
北海道との差	-0.8	+0.4	+2.4	+0.9	+3.2	+1.0
全国との差	-2.0	-1.7	+2.0	+0.5	+0.7	+0.7

(2) 全国の平均正答率を100としたときの留萌市の平均正答率の推移

※調査問題が異なり、平均正答率を単純に比較することができないため、全国の平均正答率を100とし、それに対する平均正答率の推移を示している。(令和2年度は、コロナ禍のため中止)



- ◆国語は、全国の前正答率を小学校で2.0ポイント下回り、中学校で0.5ポイント上回った。算数・数学は、全国の前正答率を小学校で1.7ポイント下回り、中学校で0.7ポイント上回った。理科は、全国の前正答率を小学校で2.0ポイント、中学校で0.7ポイント上回った。
- ◆全国の前正答率を100とすると、国語は、過去5回(平成29年度以降)、小・中学校共に97を上回っており、ほぼ全国平均並かそれ以上で推移している。算数・数学は、昨年度までの過去4回、平成29年度数学Aを除いて100以下で推移していたが、中学校では昨年度、全国の前正答率と同等となり、本年度は1.4ポイント上回った。

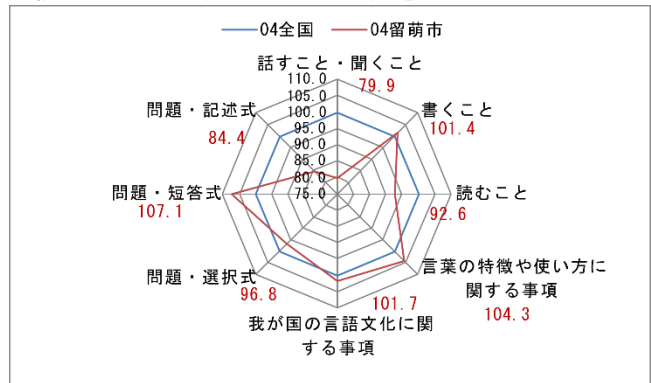
2 小学校国語

	平均正答数	平均正答率
留萌市	8.9問／14問	63.6%
北海道	9.0問／14問	64.4%
全国	9.2問／14問	65.6%

(1) 「領域別・問題別正答率」の傾向

- ◆「話すこと・聞くこと」の領域は、全国と比べて相当低く、「読むこと」の領域も全国と比べてやや低くなっている。
- ◆短答式の問題は、全国と比べてやや高く、記述式の問題は、全国と比べて相当低くなっている。

(領域別の平均正答率の状況～全国を100とする)



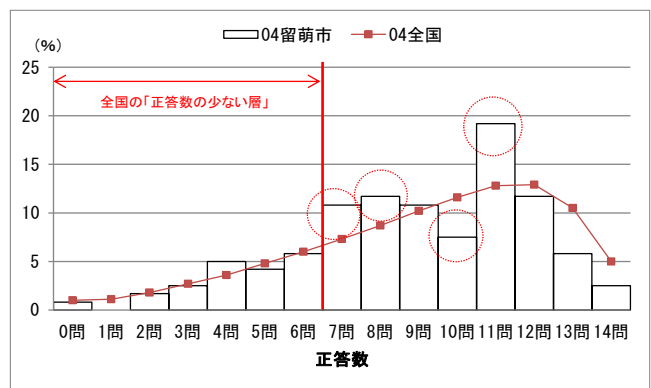
(2) 「正答数分布」グラフの傾向

- ◆14問中、正解した児童数が最も多かったのは、全国の12問に対して11問である。
- ◆正答数が7問、8問、11問の児童数の割合が、全国と比べて高く、正答数10問の児童数の割合が、全国と比べて低くなっている。

(3) 設問別の正答率の概要

①平均正答率が全国以上の設問数

H29	A : 4 / 15問	B : 6 / 9問
H30	A : 8 / 12問	B : 6 / 8問
H31	12 / 14問	
R 3	6 / 14問	
R 4	7 / 14問	



②平均正答率が全国以下の設問から

領域	出題の趣旨	設問の概要	留萌市正答率	全国正答率
話すこと・聞くこと	必要なことを質問し、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことを中心を捉える	【話し合いの様子の一部】で、中村さんが前田さんに質問し、知りたかったことの説明として適切なものを選択する	72.5%	84.7%
話すこと・聞くこと	互いの立場や意図を明確にしなが 計画的に話し合い、自分の考えをまとめる	「ごみ拾い」か「花植え」かのどちらかを選んで、()でどのように話すかを書く	33.3%	47.7%
読むこと	人物像や物語の全体像を具体的に想像する	物語から伝わってくることを考え、【森田さんの文章】の(A)に入る内容を書く	59.2%	68.3%
読むこと	表現の効果を考える	【山村さんの文章】の(B)に入る内容として適切なものを選択する	47.5%	59.2%

◇◆留萌市の児童への指導改善に当たって◆◇

【話すこと・聞くこと】

○話の中心を捉えることができるようにする指導の充実

- ・「話の中心を捉えること」には、話し手が伝えたいことの中心を捉えることと、自分が聞きたいことの中心を明確にして聞くこととの二つの側面がある。話の中心を捉える力を育むためには、話題について興味や関心をもち、聞く目的を明確にしながら集中して聞くとともに、必要な事柄を記録しながら話を聞いたり、聞いた事柄を基に分からない点や確かめたい点を質問したりする学習単元を構想し、言語活動を深めることが重要である。

○自分の考えをまとめることができるようにする指導の充実

- ・考えをまとめるためには、話し合いを通して様々な視点から検討し、互いの意見の共通点や相違点、利点や問題点等を整理する必要がある。話し合った後で考えをまとめる際には、様々な視点から検討した内容を踏まえて、自分の考えをまとめることが重要である。異なる意見を自分の考えに生かせるように、例えば「～という意見もあったが」、「～という考えもあるけれど」などの表現を用いられるようにすることが効果的である。

【読むこと】

○人物像や物語の全体像を具体的に想像できるようにする指導の充実

- ・登場人物の人物像を具体的に想像するためには、登場人物の行動や会話、様子等を表している複数の叙述を結び付け、それらを基に性格や考え方等を総合して判断する必要がある。また、物語の全体像は、登場人物や場面設定、個々の叙述等を基にした物語の世界や人物像を豊かに想像したり、登場人物の相互関係を手掛かりにして考えたりすることで捉えられる。このように、「何が書かれているか」という内容面だけでなく、「どのように描かれているか」という表現面にも着目して読むことが、物語の全体像を具体的に想像するために重要である。

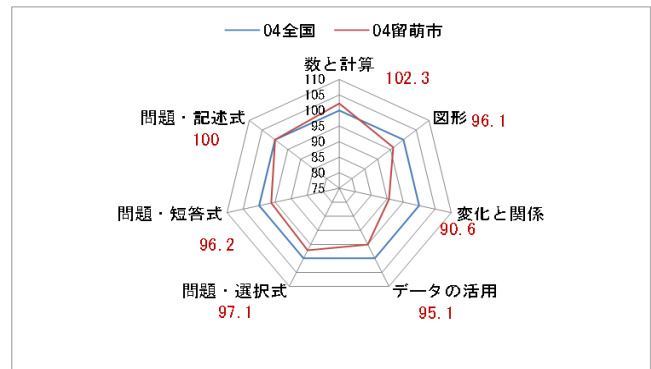
○表現の効果を考えることができるようにする指導の充実

- ・「表現の効果を考えること」とは、想像した人物像や全体像と関わらせながら、様々な表現が読み手に与える効果について自分の考えを明らかにしていくことである。指導に当たっては、第3学年及び第4学年の「エ 登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わり結び付けて具体的に想像すること」と、第5学年及び第6学年の「エ 人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすること」を系統立てて指導することが大切である。また、感動やユーモアなどを生み出す優れた叙述、暗示性の高い表現、メッセージや題材を強く意識させる表現等に着目して読むことを指導すると効果的である。

3 小学校算数

	平均正答数	平均正答率
留萌市	9.8問／16問	61.5%
北海道	9.8問／16問	61.1%
全国	10.1問／16問	63.2%

(領域別の平均正答率の状況～全国を100とする)

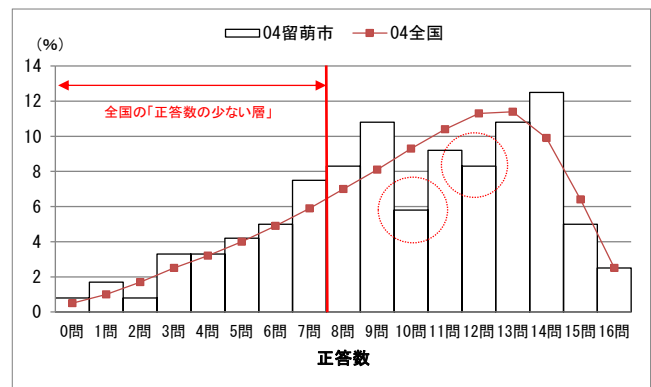


(1) 「領域別正答率」の傾向

- ◆「数と計算」「図形」の領域は、全国とほぼ同様であり、「変化と関係」「データの活用」の領域は、全国と比べてやや低くなっている。
- ◆記述式の問題は、全国と同様であり、選択式・短答式の問題は、全国とほぼ同様である。

(2) 「正答数分布」グラフの傾向

- ◆16問中、正解した児童数が最も多かったのは、全国の13問に対して14問である。
- ◆正答数が9問、14問の児童数の割合が、全国と比べて高く、正答数10問、12問の児童数の割合が、全国と比べて低くなっている。



(3) 設問別の正答率の概要

①平均正答率が全国以上の設問数

H29	A : 5 / 15問	B : 3 / 11問
H30	A : 6 / 14問	B : 4 / 10問
H31	5 / 14問	
R 3	4 / 16問	
R 4	4 / 16問	

②平均正答率が全国以下の設問から

領域	出題の趣旨	設問の概要	留萌市正答率	全国正答率
数と計算	被乗数に空位のある整数の乗法の計算をすることができる	1050×4を計算する	89.2%	92.4%
変化と関係	百分率で表された割合を分数で表すことができる	果汁が25%含まれている飲み物の量を基にしたときの、果汁の量の割合を分数で表す	65.0%	71.1%
変化と関係	百分率で表された割合と基準量から比較量を求めることができる	果汁が40%含まれている飲み物の量が1000mlのときの果汁の量を書く	55.0%	64.6%
変化と関係	伴って変わる2つの数量が比例の関係にあることを用いて、未知の数量の求め方と答えを記述できる	果汁が30%含まれている飲み物に果汁が180ml入っているときの飲み物の量の求め方と答えを書く	45.0%	48.0%
数と計算 データの活用	表の意味を理解し、全体と部分の関係に着目して、ある項目に当たる数を求めることができる	表のしりとり欄に入る数を求める式と答えを書く	71.7%	75.3%

データの活用	分類整理されたデータを基に、目的に応じてデータの特徴を捉え考察できる	分類整理されたデータから、全員の希望が一つは通るように遊びを選ぶ	57.5%	63.9%
数と計算	加法と乗法の混合したポイント数の求め方を解釈し、他の場合のポイント数の求め方と答えを記述できる	1年生の希望をよりかなえるためのポイント数の求め方と答えを書く	64.2%	67.7%
図形	図形を構成する要素に着目して、ひし形の意味や性質、構成の仕方について理解している	辺の長さや角の大きさに着目し、ひし形を書くことができるプログラムを選ぶ	63.3%	66.5%
図形	示された作図の手順を基に、図形を構成する要素に着目し、平行四辺形であることを判断できる	示されたプログラムで書くことができる図形を選ぶ	47.5%	57.6%

◇◆留萌市の児童への指導改善に当たって◆◇ (※全国との差が5ポイント以上となった指導事項について)

【変化と関係】

○百分率で表された割合を分数で表すことができるようにする指導の充実

- 割合の表し方を理解し、百分率を求めたり、用いたりできるようにすることが重要である。指導としては、例えば、飲み物の量を基にしたときの果汁の量の割合を分数で表す活動が考えられる。その際、割合の25%を $\frac{25}{100}$ と表すことができるようにすることが求められ、さらに、基準量を100として、それに対する割合を表す方法に百分率があり、基準量を1として、それに対する割合を表す方法に小数や分数があることを理解できるようにする必要がある。なお、25%を $\frac{1}{4}$ と表すと、割合を捉えやすくなるというよさを実感できるようにすることも大切である。

○百分率で表された割合と基準量から比較量を求めることができるようにする指導の充実

- 問題場面から基準量、比較量、割合の関係を捉えられるようにすることが重要である。指導としては、例えば、飲み物の量と果汁の割合から果汁の量を求める活動が考えられる。その際、(基準量) × (割合) = (比較量)などの言葉の式だけでなく、自分にとってわかりやすい図を書いて数量の関係を捉え、その数量の関係から比較量を求める式を立てられるようにすることが大切である。

【データの活用】

○目的に応じ、データの特徴を捉えて考察できるようにする指導の充実

- 目的に応じてデータ整理の観点に着目し、データの特徴を捉えて考察できるようにすることが重要である。指導としては、例えば、お楽しみ会の遊びを二つ決める場合、希望数が多い順に決める方法の他に、より多くの人の希望が一つは通るような視点で決める活動が考えられる。その際、一つの遊びを決めて、その遊びを希望していない児童が最も多く希望している遊びを調べ、選んだ遊びが一人でも多くの希望が通っているものかを確認するなどして、目的に応じて筋道を立てて考察できるようにすることが大切である。

【図形】

○図形の意味や性質について考察できるようにする指導の充実

- 図形を構成する要素に着目し、図形の意味を理解したり、図形の性質を確認したりできるようにすることが重要である。指導としては、例えば、示された作図の手順から、どのような図形ができるかを判断する活動が考えられる。その際、辺の長さや角の大きさ等からどのような図形ができるかを予想したり、実際に作図したりして、図形の性質を確認められるようにすることが大切である。

4 小学校理科

	平均正答数	平均正答率
留萌市	11.1問／17問	65.3%
北海道	10.7問／17問	62.9%
全国	10.8問／17問	63.3%

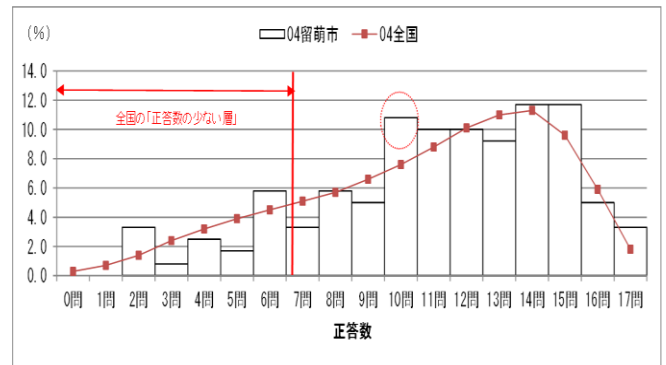
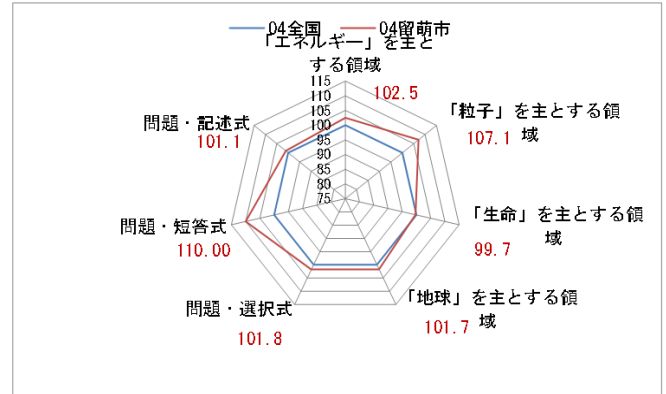
(1) 「領域別正答率」の傾向

- ◆「粒子」を主とする領域は、全国と比べてやや高く、「エネルギー」「地球」を主とする領域は、全国とほぼ同様である。
- ◆短答式の問題は、全国と比べて高く、選択式・記述式の問題は、全国とほぼ同様である。

(2) 「正答数分布」グラフの傾向

- ◆17問中、正解した児童数が最も多かったのは、全国の14問に対して14問、15問（同数）である。
- ◆正答数が10問の児童数の割合が、全国と比べて高く、正答数9問、13問の児童数の割合が、全国と比べて低くなっている。

(領域別の平均正答率の状況～全国を100とする)



(3) 設問別の正答率の概要

①平均正答率が全国以上の設問数

H30	9／16問
R 4	11／17問

②平均正答率が全国以下の設問から

領域	出題の趣旨	設問の概要	留萌市正答率	全国正答率
「生命」を主とする領域	提示された情報を複数の視点で分析して解釈し、自分の考えをもつことができる	資料を基に、カブトムシは育ち方と主な食べ物の特徴から二次元の表のどこに当てはまるのかを選ぶ	72.5%	76.1%
「粒子」を主とする領域	自分で発想した予想と実験の結果を基に、問題に対するまとめを検討して改善し、自分の考えをもつことができる	水溶液の凍り方について、実験の結果を基に、それぞれの水溶液が凍る温度を見出し、問題に対するまとめを選ぶ	59.2%	62.8%
「粒子」を主とする領域 「地球」を主とする領域	水は水蒸気になって空気中に含まれていることを理解している	鉄棒に付着していた水滴と氷の粒は、何が変化したものかを書く	52.5%	62.0%

◆◆留萌市の児童への指導改善に当たって◆◆

【生命】に関する問題の結果から

○複数の視点で分析して解釈し、自分の考えをもつことができるようにする指導の充実

・自然の事物・現象に働きかけて得た事実について分析して解釈し、より妥当な考えをつくり出すことができるようにするためには、複数の視点で比較し、見出した差異点や共通点に着目できるようにすることが重要である。指導に当たっては、自然の事物・現象に働きかけて得た事実を比較しながら、分類・整理する視点を見出す場面を設定することが大切である。

【粒子】に関する問題の結果から

○実験の結果を基に、より科学的な考えへの検討・改善ができるようにする指導の充実

・自分の予想と観察・実験の結果についての整合性を調べ、自分の考えをより科学的なものに変容させていくことが重要である。指導に当たっては、観察や実験で得られた結果を予想と照らし合わせて捉えたり、他の考えとの比較を通して自分の考えを見直したりしながら、多角的に考える学習場面を設定することが大切である。

【粒子・地球】に関する問題の結果から

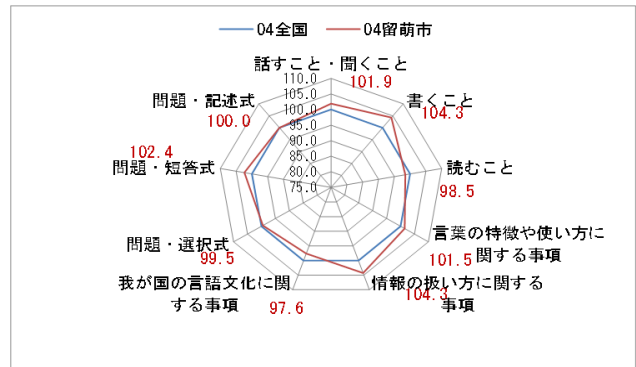
○知識をより深く理解できるようにする指導の充実

・知識についての理解度をより深いものとするためには、主体的な問題解決を通して知識を習得し、学習の成果を日常生活との関わりの中で捉え直していくことが重要である。指導に当たっては、習得した知識を次の学習や生活に生かしたり、科学的な言葉や概念を理解して説明したりする学習場面を設定することが大切である。

5 中学校国語

	平均正答数	平均正答率
留萌市	9.7問／14問	69.5%
北海道	9.6問／14問	68.6%
全国	9.7問／14問	69.0%

(領域別の平均正答率の状況～全国を100とする)

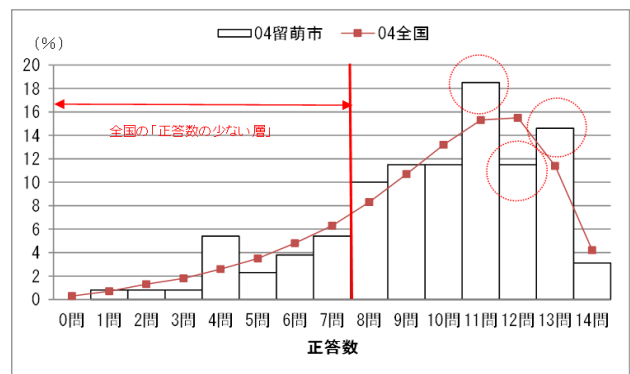


(1) 「領域別・問題別正答率」の傾向

- ◆全ての領域で、全国と同様、あるいは、ほぼ同様である。
- ◆全ての問題形式で、全国と同様、あるいは、ほぼ同様である。

(2) 「正答数分布」グラフの傾向

- ◆14問中、正解した生徒数が最も多かったのは、全国の12問に対して11問である。
- ◆正答数が11問と13問の生徒数の割合が全国と比べて高く、12問の生徒数の割合が、全国と比べて低くなっている。



(3) 設問別の正答率の概要

①平均正答率が全国以上の設問数

H29	A : 18／32問	B : 5／9問
H30	A : 14／32問	B : 6／9問
H31	8／10問	
R 3	11／14問	
R 4	5／14問	

②平均正答率が全国以下の設問から

領域	出題の趣旨	設問の概要	留萌市正答率	全国正答率
言葉の特徴や使い方に関する事項	文脈に即して漢字を正しく書く	漢字を書く（のぞく）	78.5%	82.1%
言葉の特徴や使い方に関する事項	事象や行為、心情を表す語句について理解する	「途方に暮れた」の意味として適切なものを選択する	80.8%	84.0%
我が国の言語文化に関する事項	行書の特徴を理解する	行書の特徴を踏まえた書き方について説明したものとして適切なものを選択する	28.5%	39.4%

◆◆留萌市の生徒への指導改善に当たって◆◆

【言葉の特徴や使い方に関する事項】

○文脈に即して漢字を正しく書くことができるようにする指導の充実

・漢字の指導においては、字体、字形、音訓、意味や用法等の知識を習得し、文脈に即して漢字を読んだり、書いたりできるように指導することが大切である。また、文章の中ばかりではなく、「話すこと・聞くこと」や他教科等の学習の中でも漢字の書きについて意識するようにすることも必要である。実際に書く活動を通して、漢字を正しく用いる態度と習慣とを養うことも重要であり、その際、必要に応じて辞書を引くことを習慣付けることが有効である。

○事象や行為、心情を表す語句についての理解が深まるようにする指導の充実

・文学的な文章を読み、豊かに感じたり、想像したりする力を養うためには、まず、言葉を手掛かりにしながら文脈をたどり、内容を解釈することが大切である。その際、文章の中で使われている語句に関心を持ち、語句の意味や使い方に対する認識を深められるように指導する必要がある。例えば、新しく出会った言葉を取り上げ、辞書にある様々な意味から文脈上の意味を考えたり、別の表現に言い換えたりするなどの学習活動が考えられる。

【我が国の言語文化に関する事項】

○行書の特徴を理解して書くことができるようにする指導の充実

・直線的な点画で構成されている漢字を行書で書く際には、点や画の形が丸みを帯びる場合があること、点や画の方向及び止め・はね・払いの形が変わる場合があること、点や画が連続したり省略されたりする場合があること、筆順が変わる場合があることなどといった行書の特徴を理解して書く必要がある。その際、楷書で書いた漢字と比較するなど、これまで学習してきたことを踏まえて指導することが大切である。また、筆脈を意識した点画のつながり等を身に付けさせるために、毛筆の活用に配慮する必要がある。

6 中学校数学

	平均正答数	平均正答率
留萌市	7.3問／14問	52.1%
北海道	6.9問／14問	48.9%
全国	7.2問／14問	51.4%

(1) 「領域別・問題別正答率」の傾向

- ◆全ての領域で、全国と同様、あるいは、全国とほぼ同様である。
- ◆選択式・短答式の問題は、全国とほぼ同様であり、記述式の問題は、全国と比べてやや高くなっている。

(2) 「正答数分布」グラフの傾向

- ◆16問中、正解した生徒数が最も多かったのは、全国の11問に対して12問である。
- ◆正答数が6問と12問の生徒数の割合が全国と比べて高く、9問の生徒数の割合が全国と比べて低くなっており、2つのピークが認められる。

(3) 設問別の正答率の概要

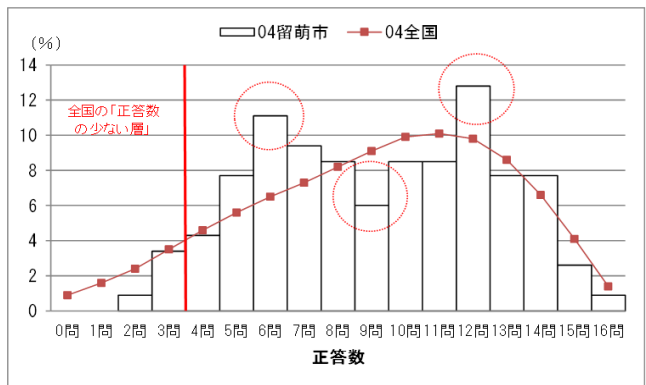
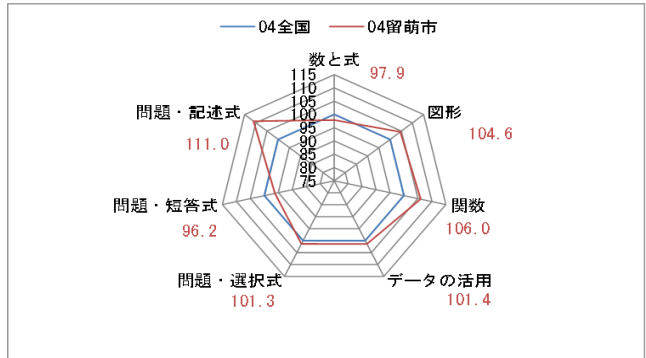
①平均正答率が全国以上の設問数

H29	A : 23 / 36問	B : 6 / 15問
H30	A : 9 / 36問	B : 1 / 14問
H31	3 / 16問	
R 3	9 / 16問	
R 4	10 / 14問	

②平均正答率が全国以下の設問から

領域	出題の趣旨	設問の概要	留萌市正答率	全国正答率
数と式	自然数を素数の積で表すことができる	42を素因数分解する	35.4%	52.2%
数と式	簡単な連立二元一次方程式を解くことができる	連立二元一次方程式 $\begin{cases} 2X+Y=1 \\ Y=X+4 \end{cases}$ を解く	70.8%	74.5%
関数	一次関数の変化の割合の意味を理解している	変化の割合が2である一次関数の関係を表した表を選ぶ	32.3%	37.9%
データの活用	データの傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができる	コマ回し大会で使用するコマをヒストグラムの特徴を基に選び、その理由を説明する	38.5%	44.0%

(領域別の平均正答率の状況～全国を100とする)



◆◆留萌市の生徒への指導改善に当たって◆◆ (※全国との差が5ポイント以上となった指導事項について)

【数と式】

○整数の性質について理解を深めることができるようにする指導の充実

- ・自然数を素因数分解することを通して、整数に対する見方をさらに広げ、整数の性質について理解を深める活動を重視していくことが大切である。その際、小学校で学んだ約数や倍数の性質を捉え直す場面を設定することが有効である。指導としては、ある自然数をその約数の積で表す活動を通して、表現された約数の積の中に素数の積があることを調べたり、素数の意味を確認したりする学習活動が考えられる。

【関数】

○一次関数の変化の割合の意味を理解し、それを求めることができるようにする指導の充実

- ・伴って変わる二つの数量 x 、 y の変化の様子を表から読み取り、一次関数 $y = ax + b$ の変化の割合を求められるように指導することが大切である。指導に当たっては、変化の割合は x の増加量に対する y の増加量の割合であり、 x の増加量が1のときの y の増加量であることを捉えられるようにするため、形式的に計算して求めることに偏らず、 x 、 y の増加量やその割合を調べる活動を通して、変化の割合の意味を実感的に理解できるようにすることが重要である。

【データの活用】

○データの傾向を捉え、判断の理由を説明できるようにする指導の充実

- ・データの傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができるように指導することが大切である。指導に当たっては、ヒストグラムの特徴を比較して読み取り、そのことを根拠として判断した理由を説明する活動を進めることが重要である。その際、データの分布の傾向について最大値、最小値、範囲、累積度数などといった指標を用いて表現できるようにする必要がある。

7 中学校理科

	平均正答数	平均正答率
留萌市	10.5問／21問	50.0%
北海道	10.3問／21問	49.1%
全国	10.4問／21問	49.3%

(1) 「領域別正答率」の傾向

- ◆「生命」を主とする領域は、全国と比べてやや高く、他の領域は、全国とほぼ同様である。
- ◆記述式の問題は、全国と比べてやや高く、選択式・短答式の問題は、全国とほぼ同様である。

(2) 「正答数分布」グラフの傾向

- ◆21問中、正解した生徒数が最も多かったのは、全国と同じく10問である。
- ◆正答数が10問、11問、15問の生徒数の割合が全国と比べて高く、正答数8問の生徒数の割合が、全国と比べて低くなっている。

(3) 設問別の正答率の概要

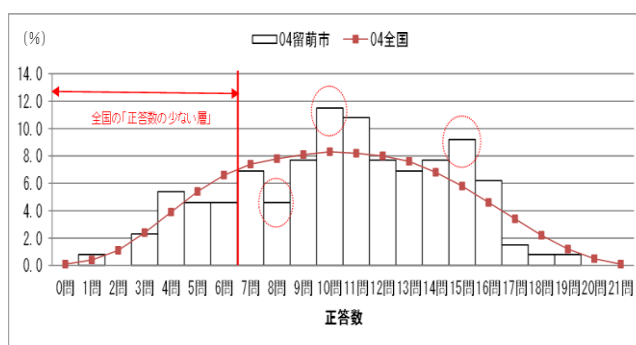
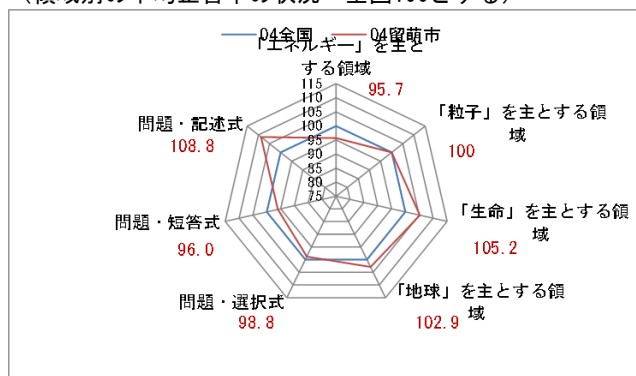
①平均正答率が全国以上の設問数

H30	12／27問
R 4	10／21問

②平均正答率が全国以下の設問から

領域	出題の趣旨	設問の概要	留萌市正答率	全国正答率
「エネルギー」を主とする領域	日常生活や社会の中で物体が静電気を帯びる現象を問うことで、静電気に関する知識及び技能を活用できるかどうかを見る	日常生活の中で、物体が静電気を帯びる現象を選択する	36.2%	44.2%
「地球」を主とする領域	継続的に記録した空の様子を撮影した画像と百葉箱の観測データを天気図に関連付けて、天気の変化を分析して解釈できるかどうかを見る	気圧、気温、湿度の変化をグラフから読み取り、雲の種類の変化と関連付けて、適切な天気図を選択する	36.9%	40.8%
「地球」を主とする領域	飛行機雲の残り方を科学的に探究する学習場面において、地上の観測データを用いて考察を行った他者の考えについて、多面的・総合的に検討して改善できるかどうかを見る	上空の気象現象を地上の観測データを用いて推論した考察の妥当性について判断する	25.4%	28.5%
「エネルギー」を主とする領域	力の働きに関する知識及び技能を活用して、物体に働く重力とつり合う力を矢印で表し、その力を説明できるかどうかを見る	おもりに働く重力とつり合う力の矢印を選択し、その力について説明する	8.5%	15.3%
「エネルギー」を主とする領域	課題に正対した考察を行うためのグラフを作成する技能が身に付いているかどうかを見る	「ばねが縮む長さは、加える力の大きさに比例するか」という課題に正対した考察を行うために、適切に処理されたグラフを選択する	41.5%	45.0%

(領域別の平均正答率の状況～全国100とする)



「粒子」を主とする領域	実験の結果が考察の根拠として十分かどうか検討し、必要な実験を指摘して、実験の計画を改善できるかどうかを見る	吸湿発熱繊維に水蒸気を多く含む空気を通した一つの実験だけで行った考察について、課題に正対しているかどうかを検討し、必要な実験を指摘する	50.0%	53.4%
-------------	---	---	-------	-------

◆◆留萌市の生徒への指導改善に当たって◆◆

【エネルギー】に関する問題の結果から

○日常生活における現象を知識と関連付けて説明できるようにする指導の充実

- 日常生活における帯電や放電の現象を静電気に関する知識と関連付けて説明することが大切である。指導に当たっては、日常生活の中で発生する現象や静電気を利用した技術・製品等を、静電気の性質と関連付けて説明する学習場面を設定することが考えられる。その際、日常生活における静電気に関する現象を、静電気の性質と関連付けながら帯電と放電に分けて整理することが重要である。

○物体に働く重力とつり合う力を矢印で表して説明できるようにする指導の充実

- 力の働きについて科学的に探究する上で、力は大きさと向きによって表されることや物体に働く2力のつり合いなど、目に見えない力を矢印で表して説明することが大切である。指導に当たっては、物体に力を働かせる実験を行い、一つの物体に二つの力が働いていることに気付くようにし、それらの力の大きさや向きを矢印で表して、つり合いの関係を説明する学習場面を設定することが考えられる。

○課題に正対した考察を行うために適切なグラフを作成できるようにする指導の充実

- ばねを押す力の大きさとばねが縮む長さの関係を科学的に探究する上で、課題に正対した考察を行うために適切なグラフを作成する技能を身に付けることが大切である。指導に当たっては、課題に立ち返りながら考察を行うために、どのようなグラフを作成すればよいかを検討する学習場面を設定することが考えられる。その際、グラフの横軸である「変化させる量」と縦軸である「変化した量」が何に当たるかを考え、グラフを作成することが重要である。

【地球】に関する問題の結果から

○観測データを天気図と関連付け、天気の変化を分析して解釈できるようにする指導の充実

- 天気の変化を科学的に探究する上で、温帯低気圧に関する知識を活用し、観測データから読み取った情報を天気図と関連付けて考察することが大切である。指導に当たっては、校庭にある百葉箱の観測データとタブレット型端末で空の様子を撮影した画像を、天気図と関連付けて考察する学習場面を設定することが考えられる。その際、複数の観測データから読み取った情報を総合し、分析して解釈できるようにすることが重要である。

○考察の根拠を多面的・総合的に検討して改善できるようにする指導の充実

- 自然の事物・現象を科学的に探究する上で、自分や他者の考察について根拠が妥当か、多面的・総合的に検討して改善することが大切である。指導に当たっては、他者の考察の根拠としている観察データの種類や科学的に探究する方法が妥当か検討する学習場面を設定することが考えられる。その際、用いた観測データが自然の事物・現象と対応しているか、観測データの読み取りが適切であるかなどの視点を明示することが重要である。

【粒子】に関する問題の結果から

○実験計画等の妥当性について検討し、改善できるようにする指導の充実

- 科学的に探究するために必要な資質・能力を育成する上で、探究の過程や方法を振り返り、実験の計画や操作等の妥当性について検討して改善を図ることが大切である。指導に当たっては、話し合い活動を通して、実験の計画を再検討して改善する学習場面を設定することが考えられる。その際、実験の計画や考察が妥当か検討し、より適切な実験の計画を考えるようにすることが重要である。また、条件の制御が不十分な実験をあらかじめ提示し、検討して改善する場面を設定することも考えられる。

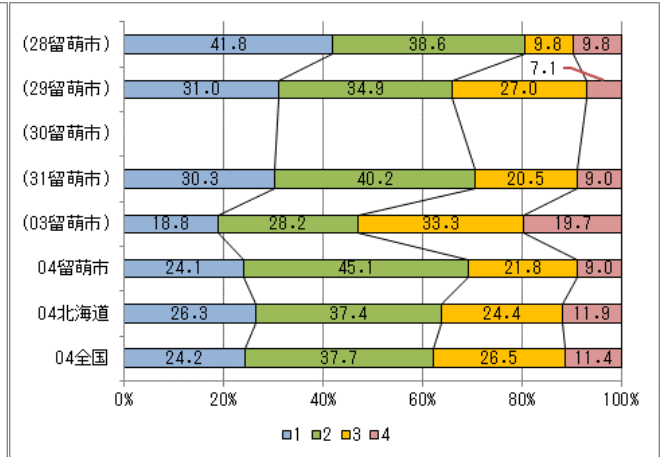
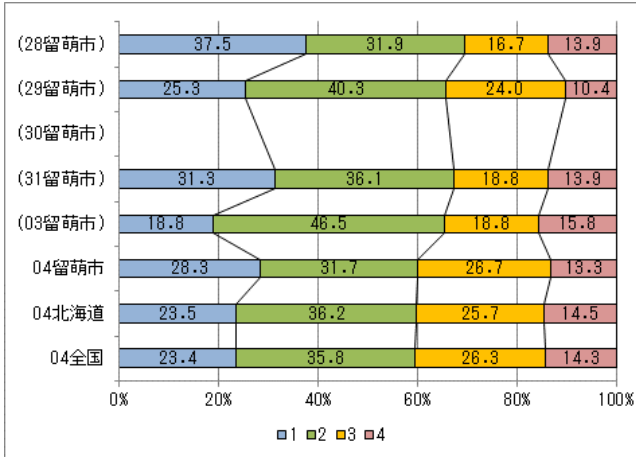
Ⅲ 質問紙調査結果の概要

※各質問項目に対するグラフの左が小学校、右が中学校である。

1 学習に対する興味・関心や授業の理解度等＜児童生徒＞

(1) 国語の勉強は好きですか

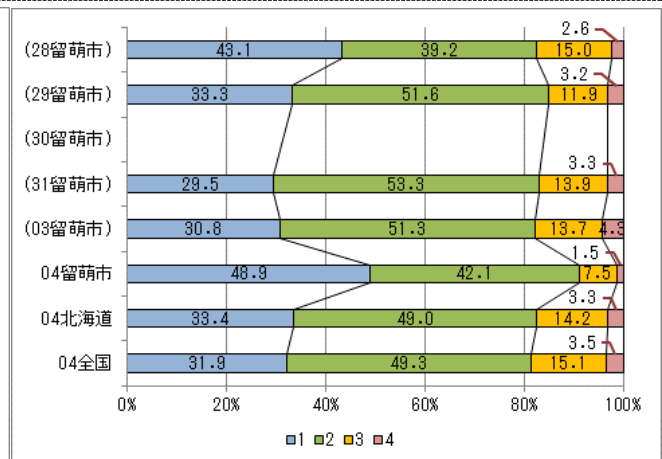
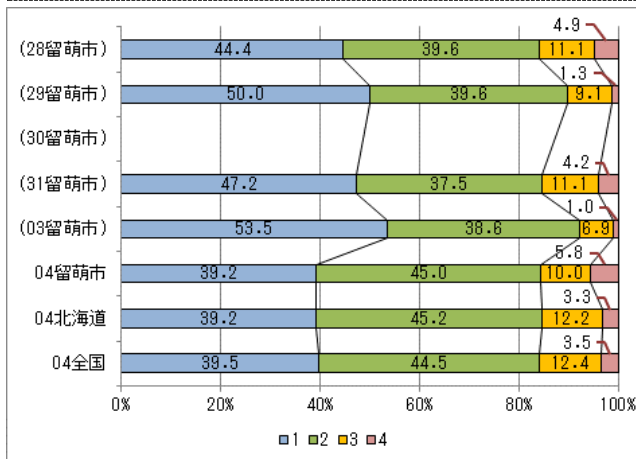
1 当てはまる 2 どちらかといえば、当てはまる 3 どちらかといえば、当てはまらない 4 当てはまらない



※ 平成30年度は質問なし

(2) 国語の授業の内容はよく分かりますか

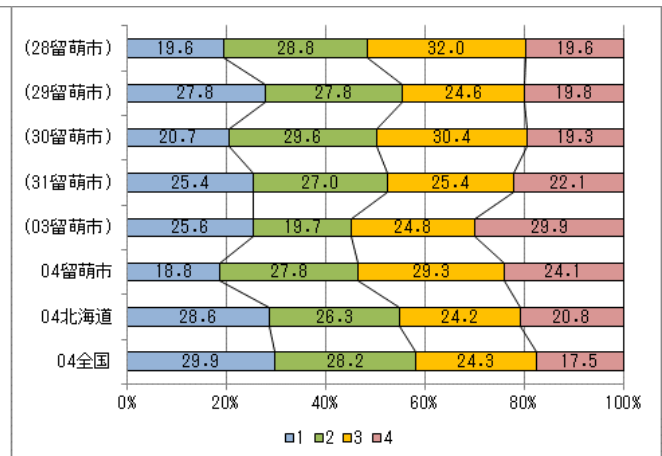
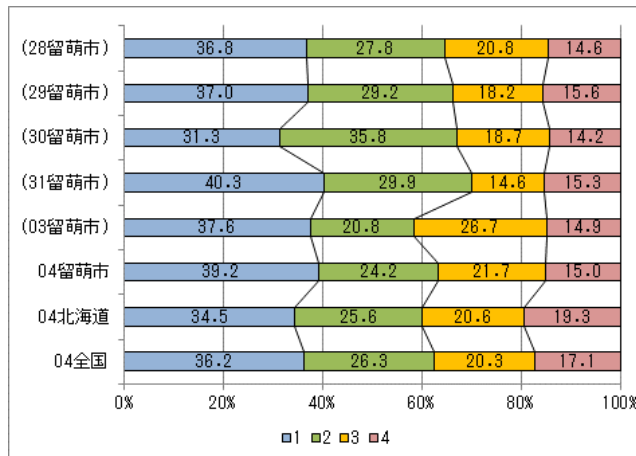
選択肢は(1)と同様



※ 平成30年度は質問なし

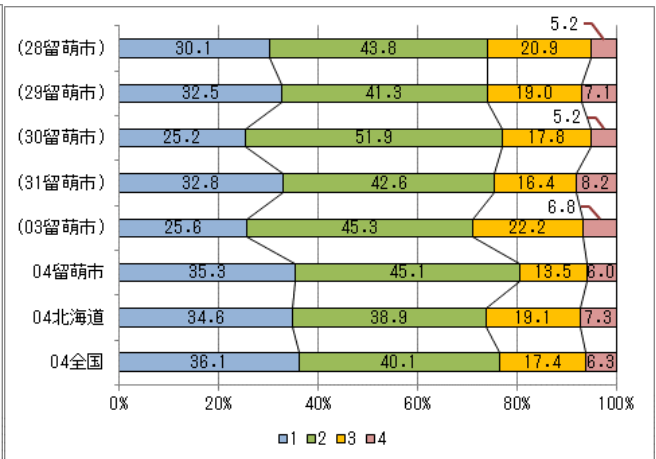
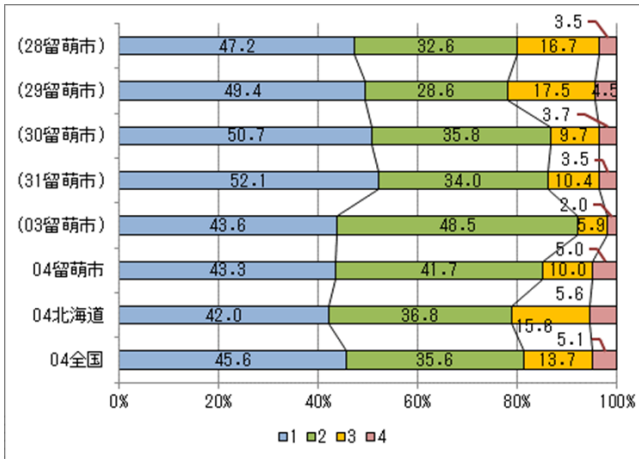
(3) 算数(数学)の勉強は好きですか

選択肢は(1)と同様



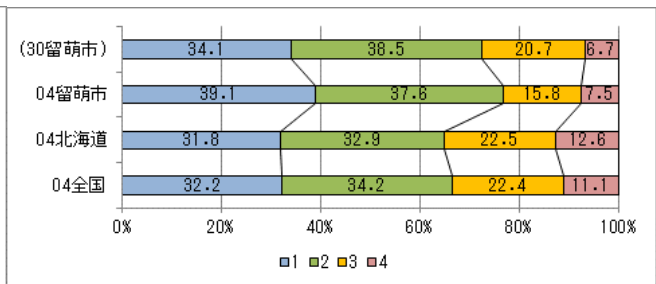
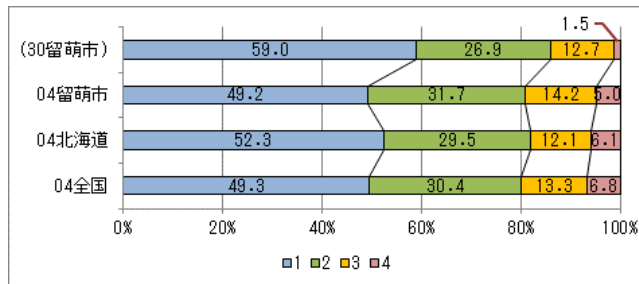
(4) 算数(数学)の授業の内容はよく分かりますか

選択肢は(1)と同様



(5) 理科の勉強は好きですか

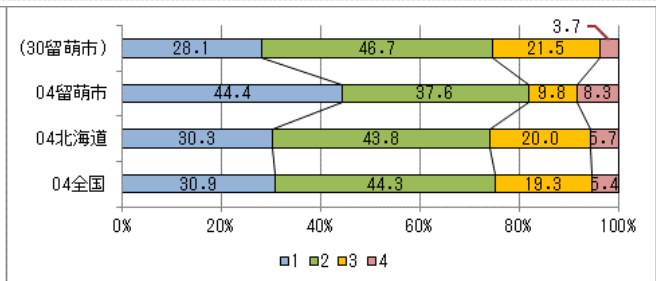
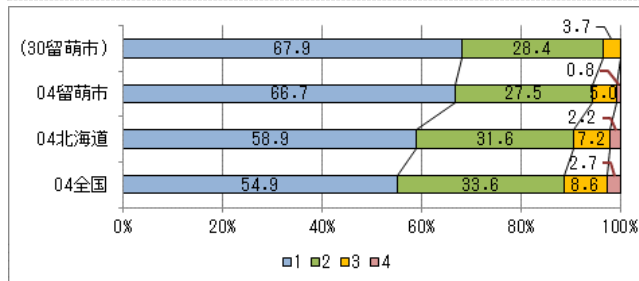
選択肢は(1)と同様



※ 前回は平成30年度に実施

(6) 理科の授業の内容はよく分かりますか

選択肢は(1)と同様



※ 前回は平成30年度に実施

【小学校】

- ◆国語の勉強が好きであると肯定的に回答した児童の割合は、全国と同様であり、令和3年度と比べると低い。
- ◆国語の授業の内容がよく分かると肯定的に回答した児童の割合は、全国と同様であり、令和3年度と比べると相当低い。
- ◆算数の勉強が好きであると肯定的に回答した児童の割合は、全国と同様であり、令和3年度と比べると高い。
- ◆算数の授業の内容がよく分かると肯定的に回答した児童の割合は、全国よりやや高く、令和3年度と比べると相当低い。
- ◆理科の勉強が好きであると肯定的に回答した児童の割合は、全国とほぼ同様であり、平成30年度と比べると低い。
- ◆理科の授業の内容がよく分かると肯定的に回答した児童の割合は、全国より高く、平成30年度とほぼ同様である。

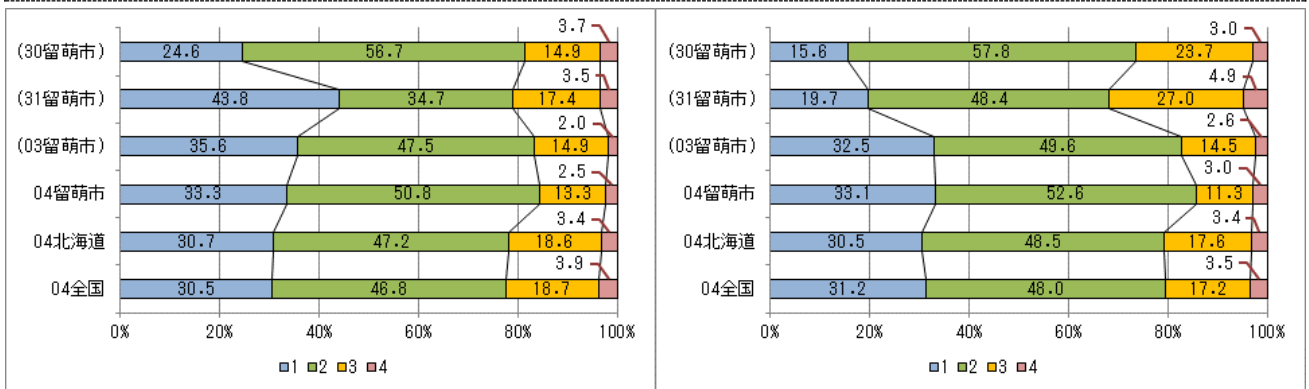
【中学校】

- ◆国語の勉強が好きであると肯定的に回答した生徒の割合は、全国より相当高く、令和3年度と比べても相当高い。
- ◆国語の授業の内容がよく分かると肯定的に回答した生徒の割合は、全国より相当高く、令和3年度と比べても相当高い。
- ◆数学の勉強が好きであると肯定的に回答した生徒の割合は、全国より相当低く、令和3年度とほぼ同様である。
- ◆数学の授業の内容がよく分かると肯定的に回答した生徒の割合は、全国よりやや高く、令和3年度と比べると相当高い。
- ◆理科の勉強が好きであると肯定的に回答した生徒の割合は、全国より相当高く、平成30年度と比べるとやや高い。
- ◆理科の授業の内容がよく分かると肯定的に回答した生徒の割合は、全国より高く、平成30年度と比べると相当高い。

2 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善等に関する取組状況<児童生徒・学校>

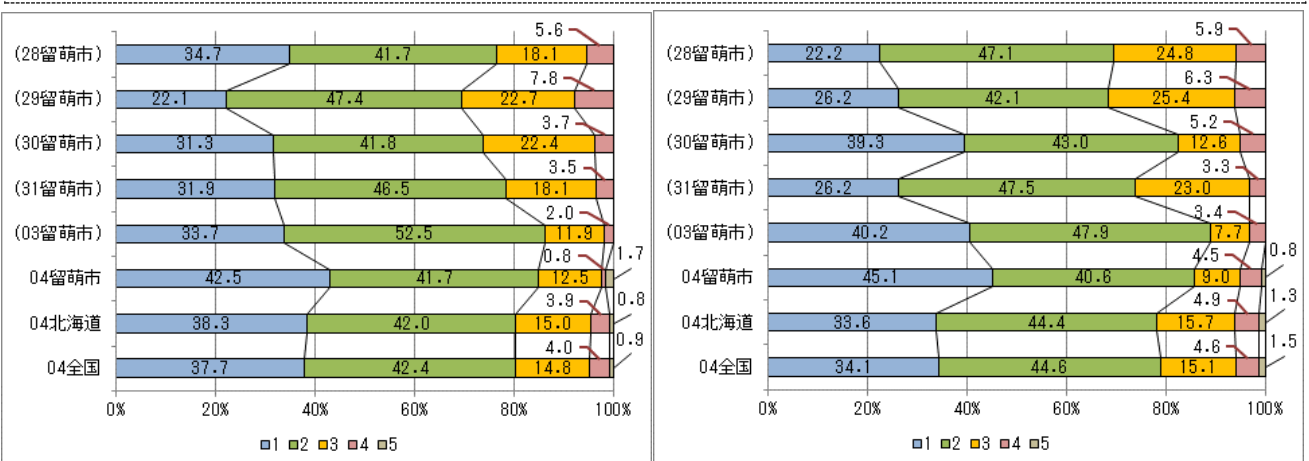
(1) 5年生までに(1、2年生のとき)に受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思いますか<児童生徒>

- 1 当てはまる 2 どちらかといえば、当てはまる 3 どちらかといえば、当てはまらない
4 当てはまらない



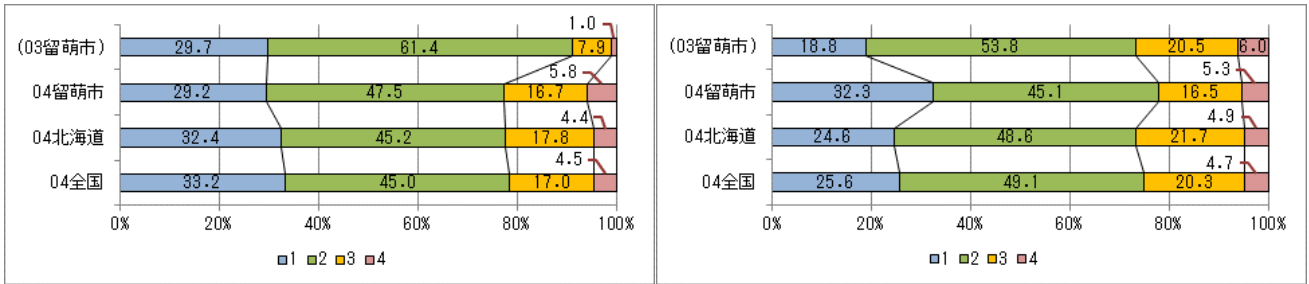
(2) 学級の友達と(生徒)の間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか<児童生徒>

- 1 当てはまる 2 どちらかといえば、当てはまる 3 どちらかといえば、当てはまらない
4 当てはまらない 5 学級の友達と話し合う活動を行っていない



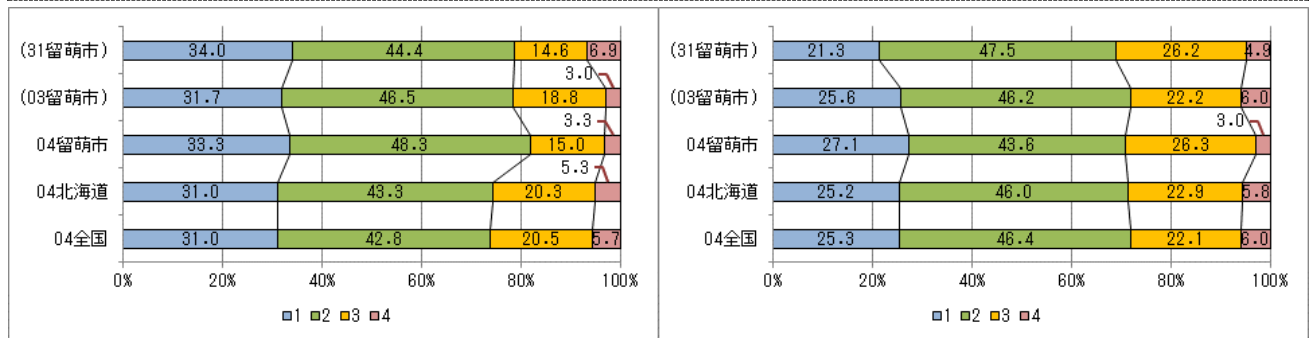
(3) 学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか<児童生徒>

選択肢は(1)と同様



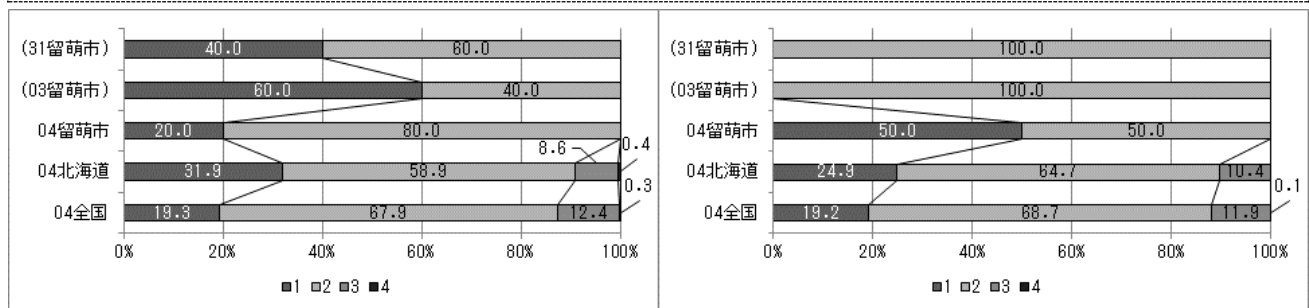
(4) 学級活動における学級での話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいると思いますか<児童生徒>

選択肢は(1)と同様



(5) 調査対象学年の児童生徒は、授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができていると思いますか<学校>

- 1 そう思う 2 どちらかと言えば、そう思う 3 どちらかといえば、そう思わない 4 そう思わない



【小学校】

- ◆ 5年生までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から進んで取り組んでいたと思うと回答した児童の割合は、全国より高く、令和3年度とほぼ同様である。
- ◆ 学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思うと回答した児童の割合は、全国よりやや高く、令和3年度とほぼ同様である。
- ◆ 学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていると回答した児童の割合は、全国とほぼ同様であり、令和3年度と比べると相当低い。
- ◆ 学級活動における学級での話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいると回答した児童の割合は、全国より相当高く、令和3年度と比べるとやや高い。
- ◆ 調査対象学年の児童は、授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができていると思うと全ての学校が回答している。

【中学校】

- ◆ 2年生までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から進んで取り組んでいたと思うと回答した生徒の割合は、全国より高く、令和3年度と比べるとやや高い。
- ◆ 学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている

と思うと回答した生徒の割合は、全国より相当高く、令和3年度とほぼ同様である。

◆学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていると回答した生徒の割合は、全国とほぼ同様であり、令和3年度と比べるとやや高い。

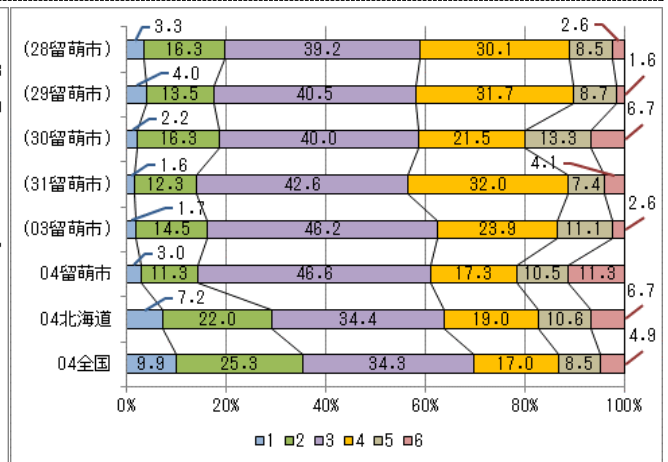
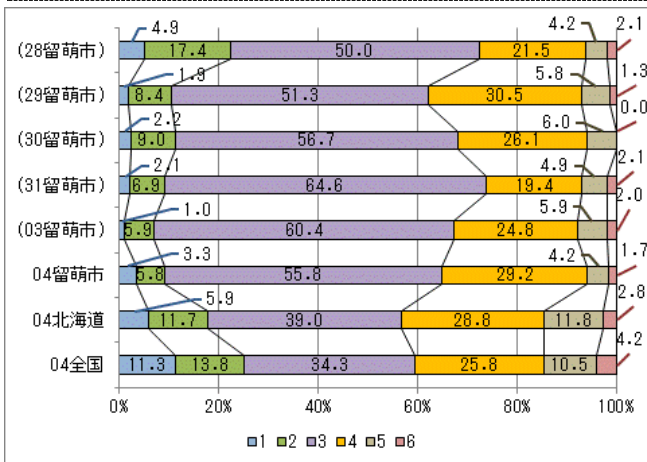
◆学級活動における学級での話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいると回答した生徒の割合は、全国とほぼ同様であり、令和3年度ともほぼ同様である。

◆調査対象学年の生徒は、授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができていると思うと全ての学校が回答している。

3 学習習慣・生活習慣等〈児童生徒〉

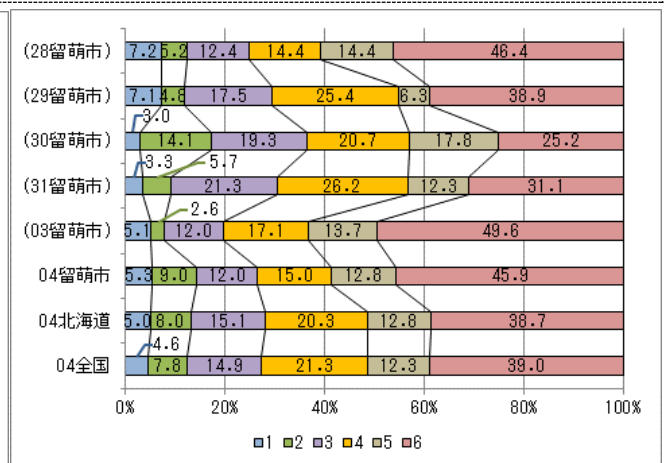
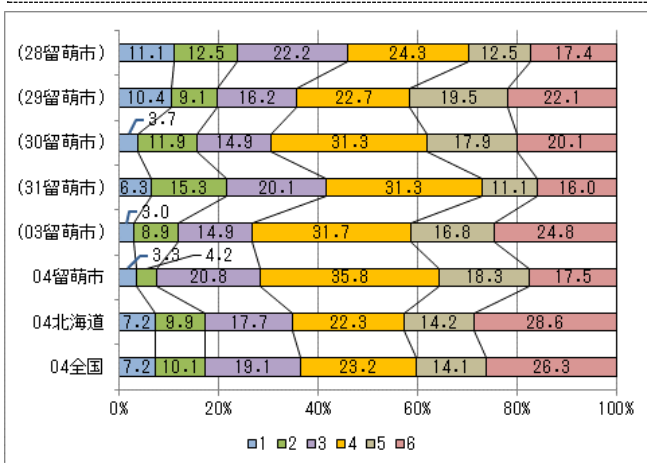
(1) 学校の授業時間以外に、普段（月～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか
（学習塾で勉強している時間や家庭教師に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）

- 1 3時間以上 2 2時間以上、3時間より少ない 3 1時間以上、2時間より少ない
4 30分以上、1時間より少ない 5 30分より少ない 6 全くしない



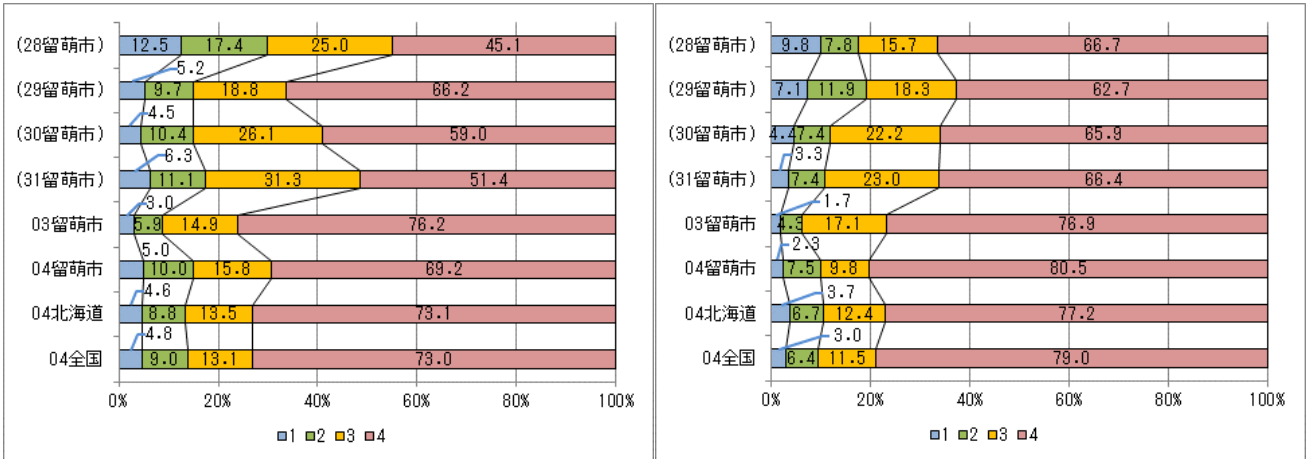
(2) 学校の授業時間以外に、普段（月～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか
（教科書や参考書、漫画や雑誌は除く）

- 1 2時間以上 2 1時間以上、2時間より少ない 3 30分以上、1時間より少ない
4 10分以上、30分より少ない 5 10分より少ない 6 全くしない



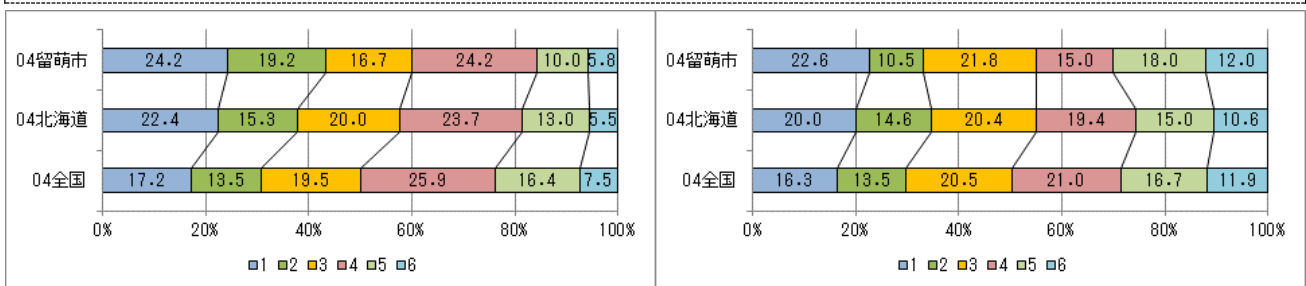
(3) 新聞を読んでいますか

- 1 ほぼ毎日読んでいる 2 週に1～3回程度読んでいる 3 月に1～3回程度読んでいる
4 ほとんど、または、全く読まない



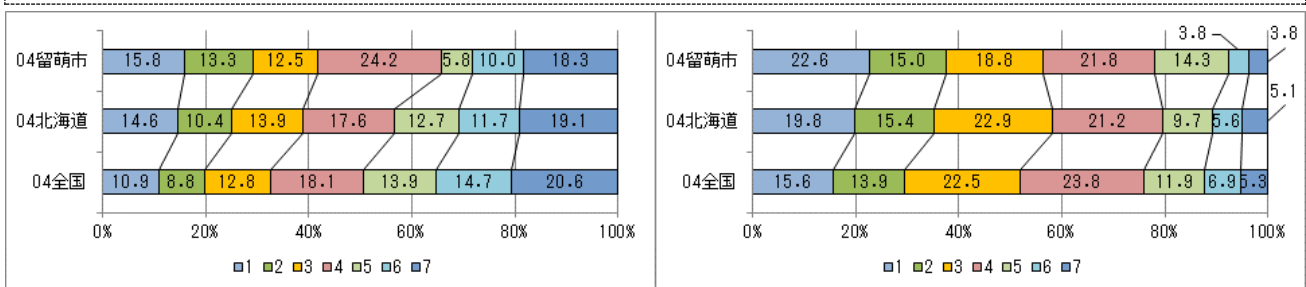
(4) 普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム（コンピュータゲーム、携帯型のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む）をしますか

- 1 4時間以上 2 3時間以上、4時間より少ない 3 2時間以上、3時間より少ない
4 1時間以上、2時間より少ない 5 1時間より少ない 6 全くしない



(5) 普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンでSNSや動画視聴などをしますか（携帯電話やスマートフォンを使って学習する時間やゲームをする時間は除く）

- 1 4時間以上 2 3時間以上、4時間より少ない 3 2時間以上、3時間より少ない
4 1時間以上、2時間より少ない 5 30分以上、1時間より少ない 6 30分より少ない
7 携帯電話やスマートフォンを持っていない



【小学校】

- ◆ 普段（月～金曜日）、1日当たり1時間以上勉強をすると回答した児童の割合は、全国より高く、令和3年度とほぼ同様である。
- ◆ 普段（月～金曜日）、1日当たり30分以上読書すると回答した児童の割合は、全国より相当低く、令和3年度とほぼ同様である。
- ◆ 週に1回以上新聞を読むと回答した児童の割合は、全国とほぼ同様であり、令和3年度より高い。
- ◆ 普段（月～金曜日）、1日当たり2時間以上テレビゲームをすると回答した児童の割合は、全国より相当高い。
- ◆ 普段（月～金曜日）、1日当たり2時間以上携帯電話やスマートフォンでSNSや動画視聴などをすると回答した児童の割合は、全国より相当高い。

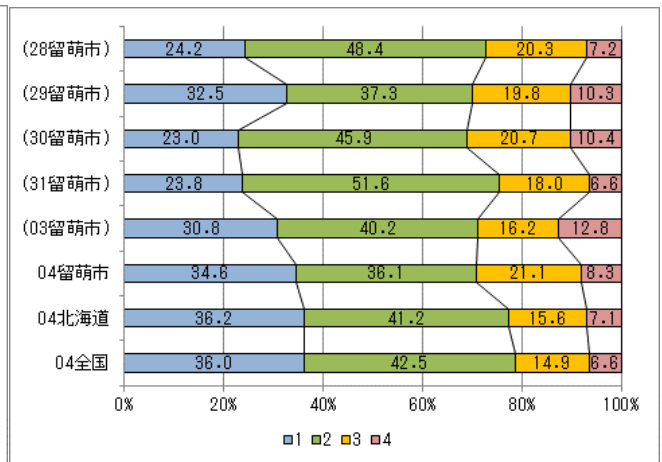
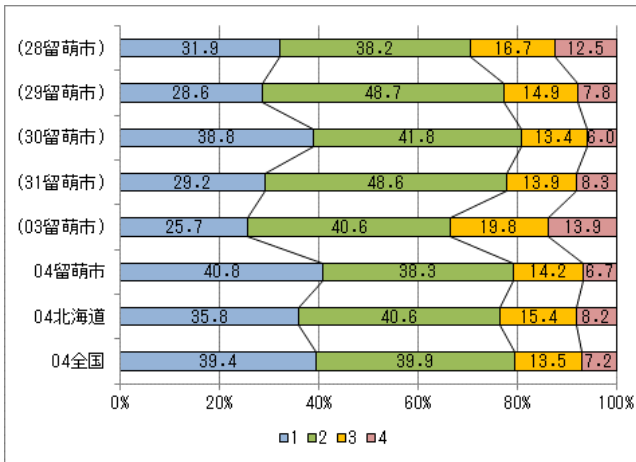
【中学校】

- ◆ 普段(月～金曜日)、1日当たり1時間以上勉強をすると回答した生徒の割合は、全国より相当低く、令和3年度とほぼ同様である。
- ◆ 普段(月～金曜日)、1日当たり30分以上読書すると回答した生徒の割合は、全国とほぼ同様であり、令和3年度と比べると高い。
- ◆ 週に1回以上新聞を読むと回答した生徒の割合は、全国とほぼ同様であり、令和3年度より高い。
- ◆ 普段(月～金曜日)、1日当たり2時間以上テレビゲームをすると回答した生徒の割合は、全国よりやや高い。
- ◆ 普段(月～金曜日)、1日当たり2時間以上携帯電話やスマートフォンでSNSや動画視聴などをすると回答した生徒の割合は、全国よりやや高い。

4 規範意識、自己有用感等<児童生徒>

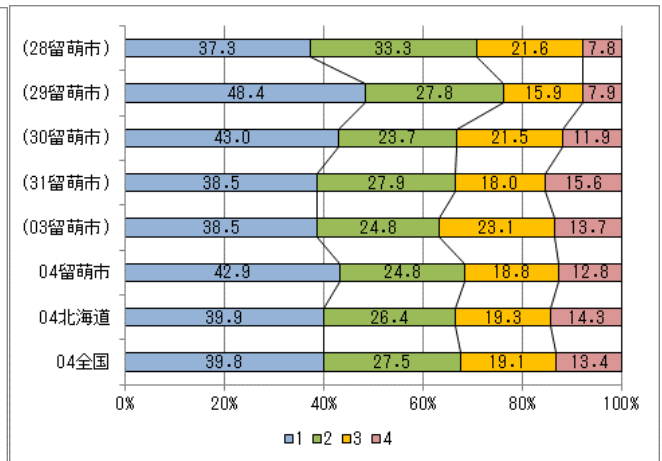
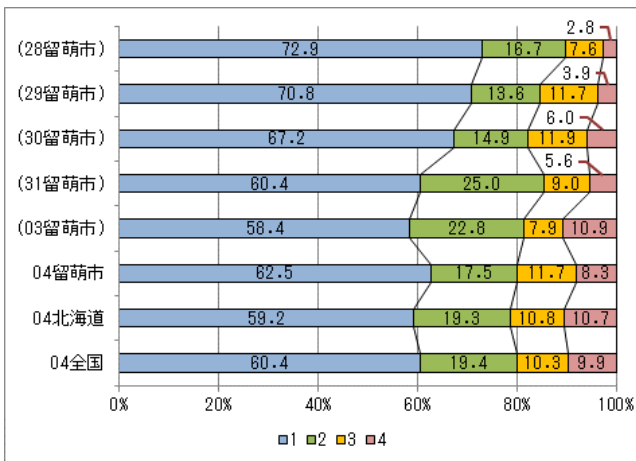
(1) 自分には、よいところがあると思いますか。

- 1 当てはまる 2 どちらかといえば、当てはまる 3 どちらかといえば、当てはまらない
4 当てはまらない



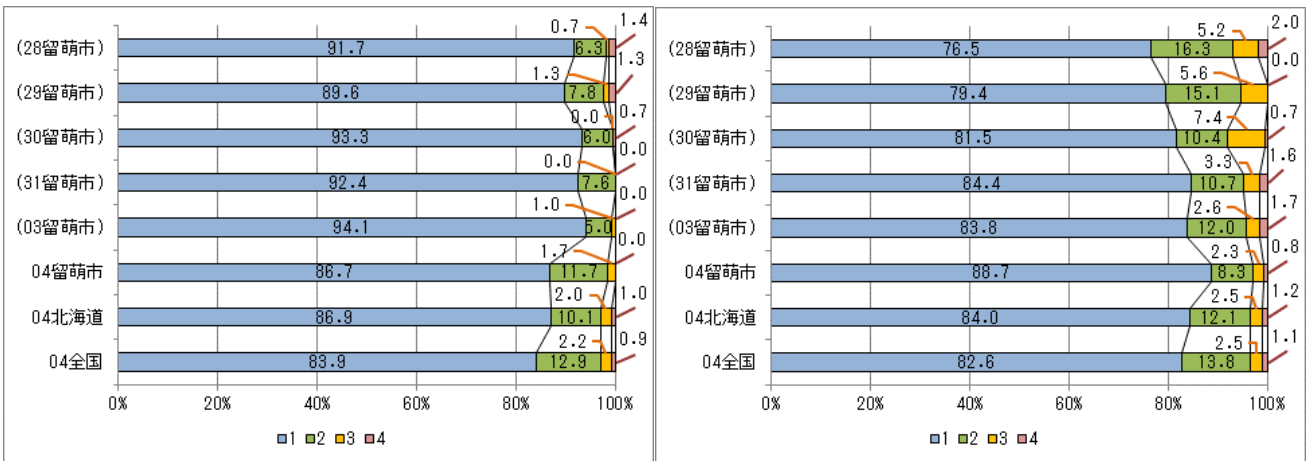
(2) 将来の夢や目標を持っていますか

選択肢は4の(1)と同様



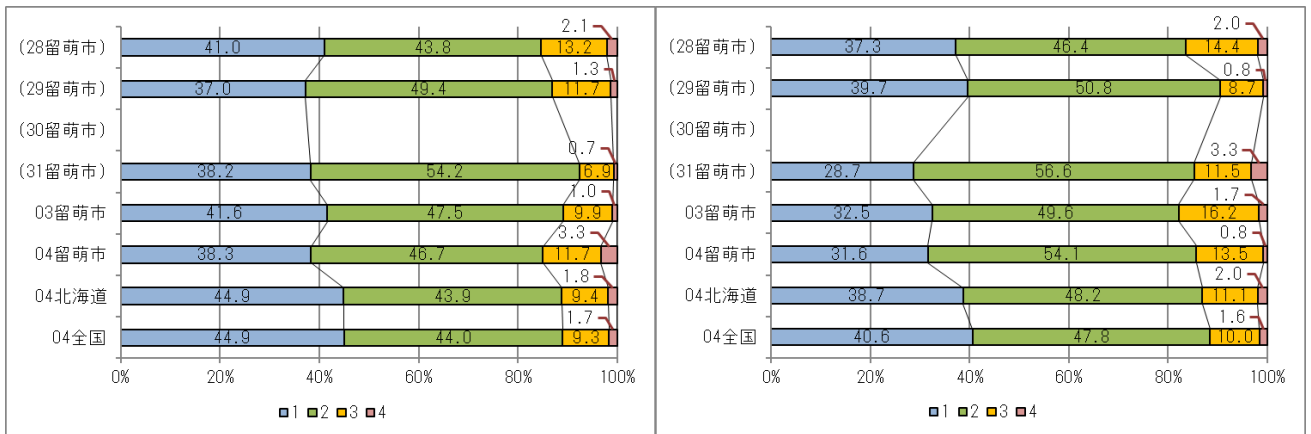
(3) いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか

選択肢は4の(1)と同様



(4) 人が困っているときは、進んで助けていますか

選択肢は4の(1)と同様



※ 平成30年度は質問なし

【小学校】

- ◆自分にはよいところがあると肯定的に回答した児童の割合は、全国と同様であり、令和3年度と比べると相当高い。
- ◆将来の夢や目標を持っていると肯定的に回答した児童の割合は、全国と同様であり、令和3年度とほぼ同様である。
- ◆いじめはどんなことがあってもいけないことだと、98%余りの児童が肯定的に回答している。
- ◆人が困っているときは、進んで助けていると肯定的に回答した児童の割合は、全国よりやや低い。

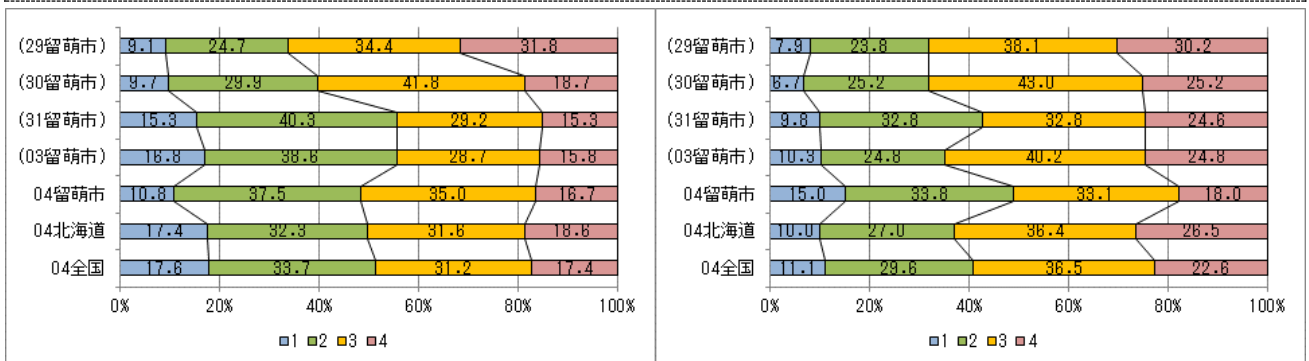
【中学校】

- ◆自分にはよいところがあると肯定的に回答した生徒の割合は、全国より相当低く、令和3年度と同様である。
- ◆将来の夢や目標を持っていると肯定的に回答した生徒の割合は、全国と同様であり、令和3年度と比べるとやや高い。
- ◆いじめはどんなことがあってもいけないことだと、97%の生徒が肯定的に回答している。
- ◆人が困っているときは、進んで助けていると肯定的に回答した生徒の割合は、全国とほぼ同様である。

5 地域や社会に関する活動の状況<児童生徒>

(1) 地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがありますか

- 1 当てはまる 2 どちらかといえば、当てはまる 3 どちらかといえば、当てはまらない
4 当てはまらない



【小学校】

◆地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがあると肯定的に回答した児童の割合は、全国よりやや低く、令和3年度と比べると相当低い。

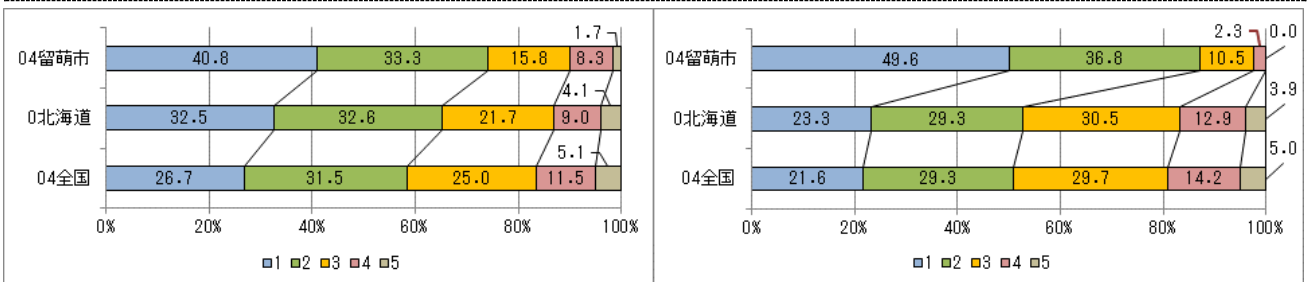
【中学校】

◆地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがあると肯定的に回答した生徒の割合は、全国より相当高く、令和3年度と比べても相当高い。

6 ICTを活用した学習状況<児童生徒>

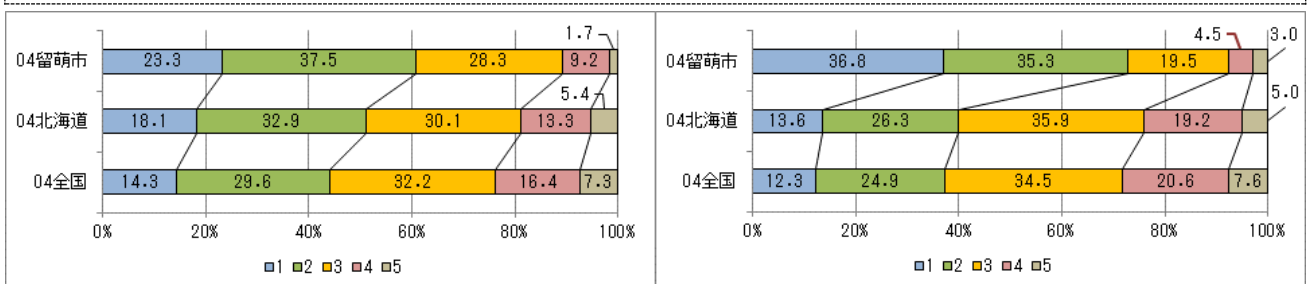
(1) 5年生(1、2年生のとき)までに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用しましたか

- 1 ほぼ毎日 2 週3回以上 3 週1回以上 4 月1回以上 5 月1回未満



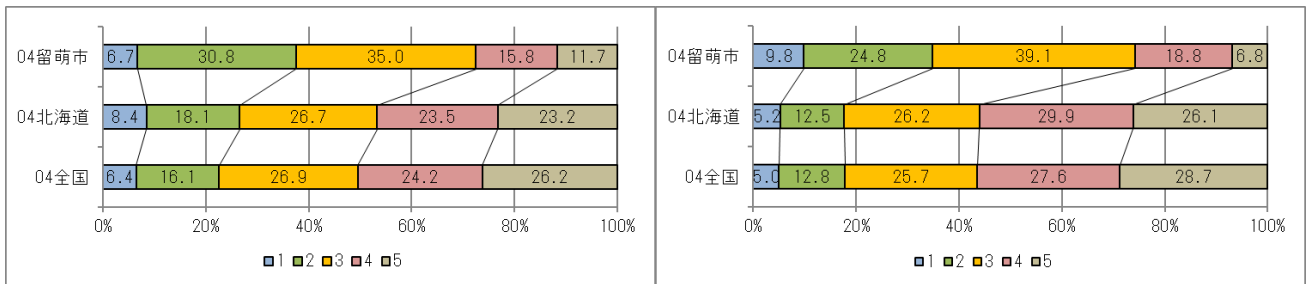
(2) 学校で、授業中に自分で調べる場面で、PC・タブレットなどのICT機器をどの程度使っていますか(インターネット検索など)

選択肢は(1)と同様



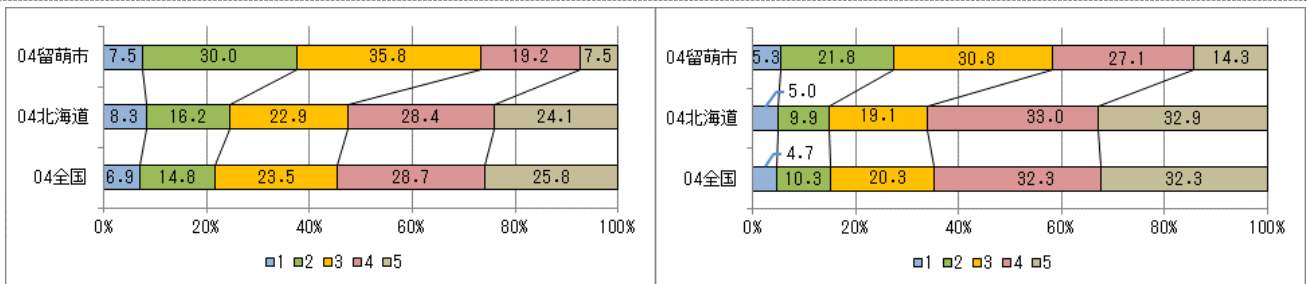
(3) 学校で、学級の友達（生徒）と意見を交換する場面で、PC・タブレットなどのICT機器をどの程度使っていますか

選択肢は（1）と同様



(4) 学校で、自分の考えをまとめ、発表する場面で、PC・タブレットなどのICT機器をどの程度使っていますか

選択肢は（1）と同様



【小学校】

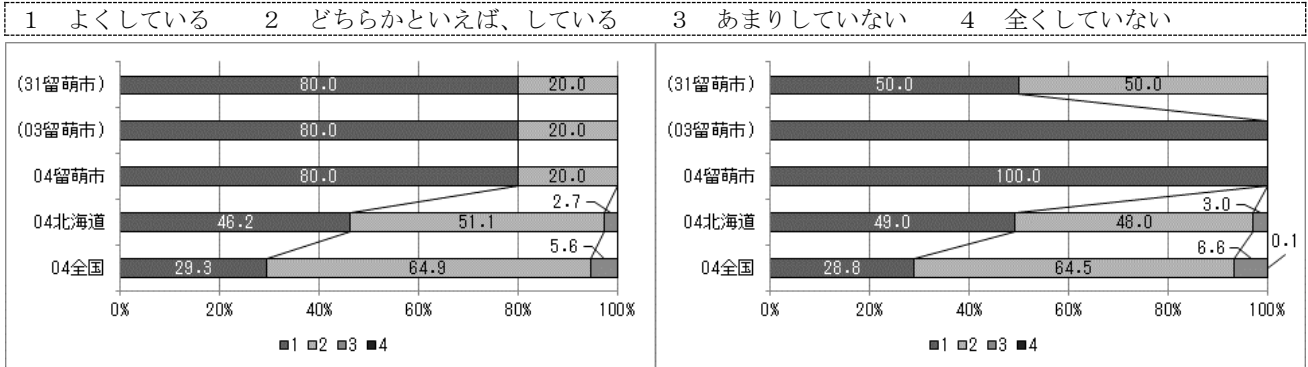
- ◆ 5年生までに受けた授業では、週3日以上PC・タブレットなどのICT機器を使用したと回答した児童の割合は、全国より相当高い。
- ◆ 授業中に自分で調べる場面で、週3日以上PC・タブレットなどのICT機器を使用したと回答した児童の割合は、全国より相当高い。
- ◆ 学級の友達（生徒）と意見を交換する場面で、週3日以上PC・タブレットなどのICT機器を使用したと回答した児童の割合は、全国より相当高い。
- ◆ 自分の考えをまとめ、発表する場面で、週3日以上PC・タブレットなどのICT機器を使用したと回答した児童の割合は、全国より相当高い。

【中学校】

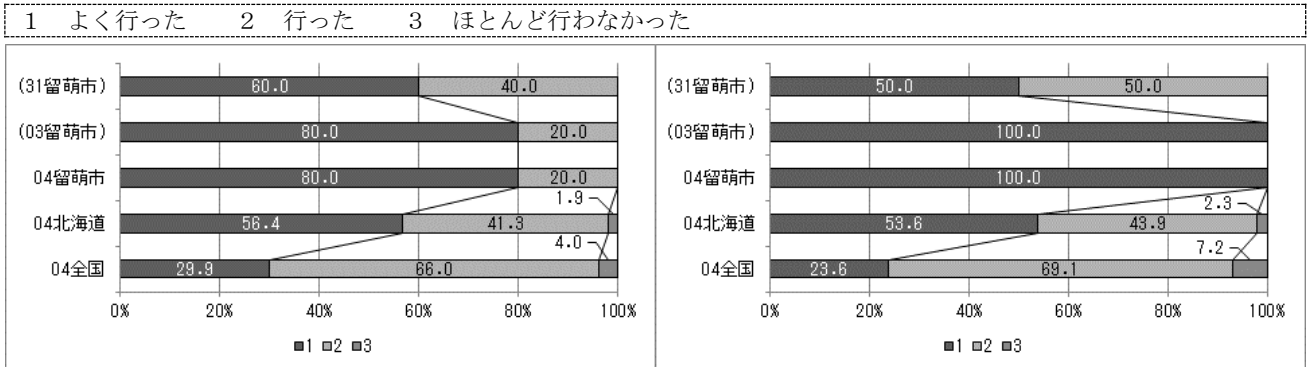
- ◆ 2年生までに受けた授業では、週3日以上PC・タブレットなどのICT機器を使用したと回答した生徒の割合は、全国より相当高い。
- ◆ 授業中に自分で調べる場面で、週3日以上PC・タブレットなどのICT機器を使用したと回答した生徒の割合は、全国より相当高い。
- ◆ 学級の友達（生徒）と意見を交換する場面で、週3日以上PC・タブレットなどのICT機器を使用したと回答した生徒の割合は、全国より相当高い。
- ◆ 自分の考えをまとめ、発表する場面で、週3日以上PC・タブレットなどのICT機器を使用したと回答した生徒の割合は、全国より相当高い。

7 その他<学校>

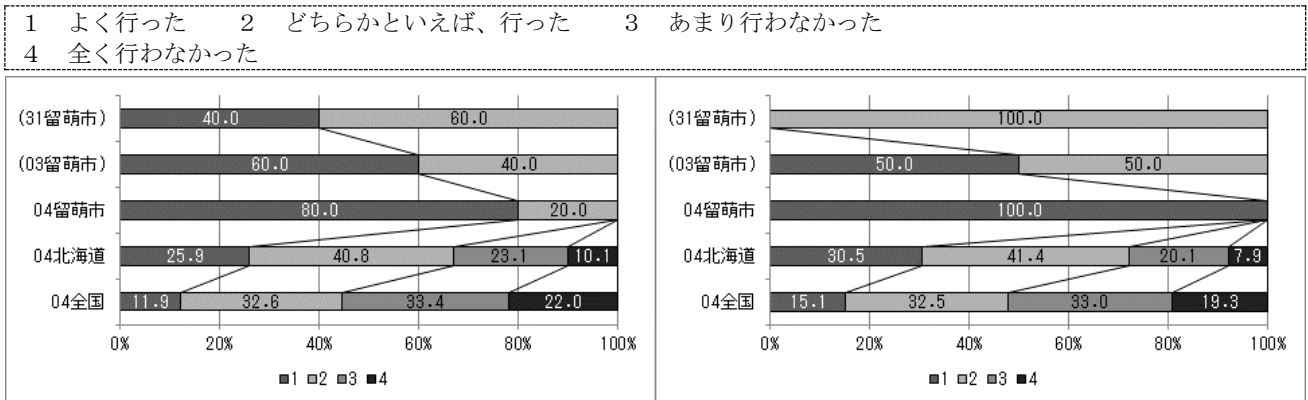
(1) 児童生徒の姿や地域の現状等に関する調査や各種データ等に基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立していますか



(2) 令和3年度全国学力・学習状況調査の自校の結果について、調査対象学年・教科だけではなく、学校全体で教育活動を改善するために活用しましたか



(3) 令和3年度の全国学力・学習状況調査の分析結果について、近隣等の中学校（小学校）と成果や課題を共有しましたか



【小学校】

- ◆児童の姿や地域の現状等に関する調査や各種データ等に基づき、教育課程を編成、実施、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを全ての学校で確立している。
- ◆令和3年度全国学力・学習状況調査の自校の結果について、調査対象学年・教科だけでなく、学校全体で教育活動を改善するために全ての学校で活用している。
- ◆令和3年度全国学力・学習状況調査の分析結果について、全ての学校で近隣等の中学校と成果や課題を共有している。

【中学校】

- ◆生徒の姿や地域の現状等に関する調査や各種データ等に基づき、教育課程を編成、実施、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを全ての学校で確立している。
- ◆令和3年度全国学力・学習状況調査の自校の結果について、調査対象学年・教科だけでなく、学校全体で教育活動を改善するために全ての学校で活用している。
- ◆令和3年度全国学力・学習状況調査の分析結果について、全ての学校で近隣等の小学校と成果や課題を共有している。

IV おわりに

令和4年度全国学力・学習状況調査は、国語、算数・数学に4年ぶりとなる理科を加えて実施されました。本報告書は、全国学力・学習状況調査の目的（1頁参照）から、留萌市の児童生徒の学力・学習状況を把握・分析し、まとめたものとなっています。

報告書の作成に当たっては、調査の結果が学力の特定の一部であることや、学校における教育活動の一側面に過ぎないことを十分に踏まえた上で、留萌市の学力の全体的な傾向や児童生徒質問紙・学校質問紙から見える特徴的な事項等について記載しています。

各小中学校では、児童生徒の学力向上に向けて、「学校改善プランの立案と実行」「学校で統一した授業スタイルや学習規律の確立」「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善」「放課後や長期休業中の学習サポートの実施」「一人一台端末等のICT機器の効果的な活用等、指導方法の工夫改善」など、様々な取組を推進・展開しています。

今年度の結果として、国語においては全国の平均正答率を小学校で2.0ポイント下回り、中学校で0.5ポイント上回りました。算数・数学においては全国の平均正答率を小学校で1.7ポイント下回り、中学校で0.7ポイント上回りました。過去の推移を見ると、算数・数学の確かな学力の定着に向けた授業改善、学習支援等の充実が求められてきたところですが、中学校では昨年度、全国の平均正答率と同等となり、今年度は上回ることができました。また、理科においては小学校で2.0ポイント上回り、中学校でも0.7ポイント上回りました。

一方、児童生徒質問紙・学校質問紙からは学習内容の確実な定着のために、学校と家庭・地域の共通理解のもと、引き続き学習習慣を確立できるよう家庭学習に関する取組を進めていくことが重要になります。さらに、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から進んで取り組むとともに、学習した内容を自ら振り返り、発展的な学びにつなげられるように小学校と中学校が連携し、9年間を見通して、学力向上と生徒指導の両面から目標を共有し、指導に当たることが重要であると考えます。

また、新型コロナウイルスによる影響は、完全には無くならない状況ですが、学びを止めず、新たな時代にふさわしい教育を構想し、着実な実践を積み上げていかなければなりません。将来を担う児童生徒一人一人に「たくましく未来を切り拓いていく資質・能力」を身に付けさせることが、学校教育に携わる者の責務と考えます。今後も、各小中学校と教育委員会において、「今、目の前にいる子どもたち」の課題を改めてしっかり分析し、学校・家庭・地域が連携協働しながら、目に見える形で改善・解決に取り組んで参りますので、引き続きご支援・ご協力をお願い申し上げます。